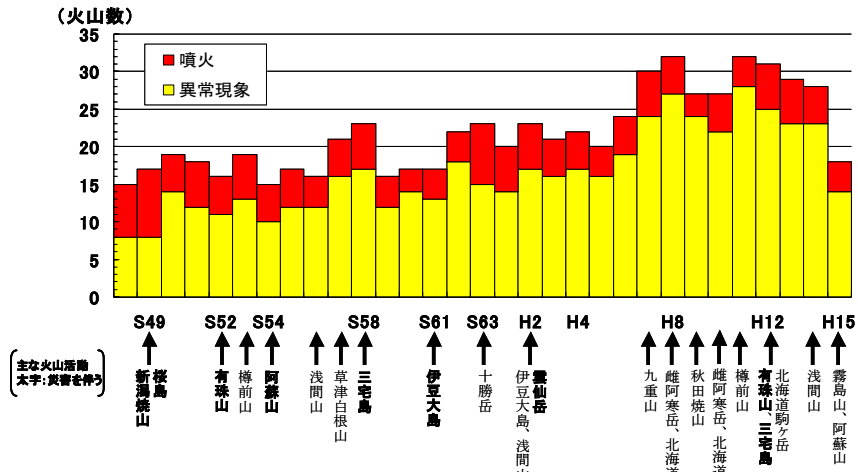


- 世界に占める日本の国土面積は、0.25% であるにもかかわらず、マグニチュード6以上の地震回数は22.9%、活火山数は7.1% にものぼる地震・火山大国である。

浅間山、霧島等で活発な火山活動が続いているほか、三宅島では長期間の火山ガスの放出により予想を上回る枯死木が発生しており、住民の帰島にあわせて一層の土砂災害対策が必要となっている。



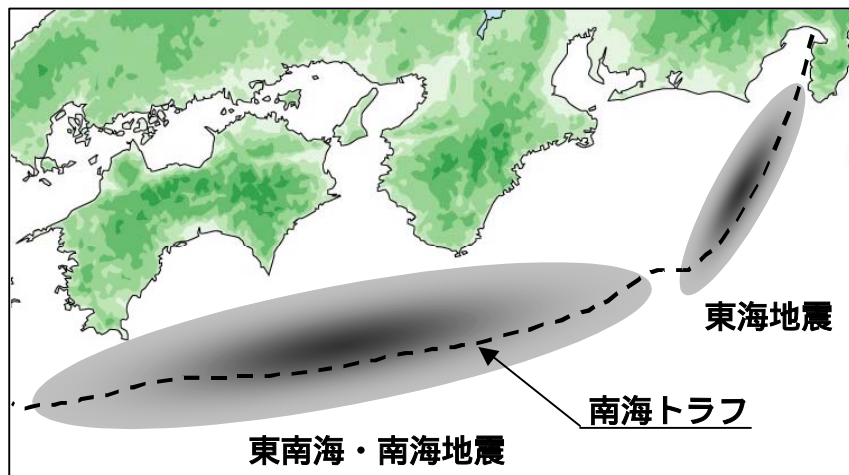
【三宅島の噴火状況（平成12年8月）】



注1) 日本にある108活火山のうち、北方領土にある11火山を除いた97火山を対象
 注2) 「異常現象」とは火山性地震や火山性微動等火山観測データに異常があったもの
 注3) 気象庁資料より河川局が作成

【年別の火山活動状況】

- 東海地震はいつ起きてもおかしくない状況にあり、東南海・南海地震は今世紀前半にも発生するおそれがあり、両地震とも発生した場合には甚大な被害が想定されることから、既存の施設を活用して、緊急的に防災機能を確保することが必要となっている。



〔過去の主な南海トラフでの地震・津波被害〕

1707年	宝永地震(M8.6)	死者 5,049人
1854年	安政南海地震(M8.4)	死者 2,658人
1944年	東南海地震(M7.9)	死者 1,251人
1946年	南海地震(M8.0)	死者 1,330人